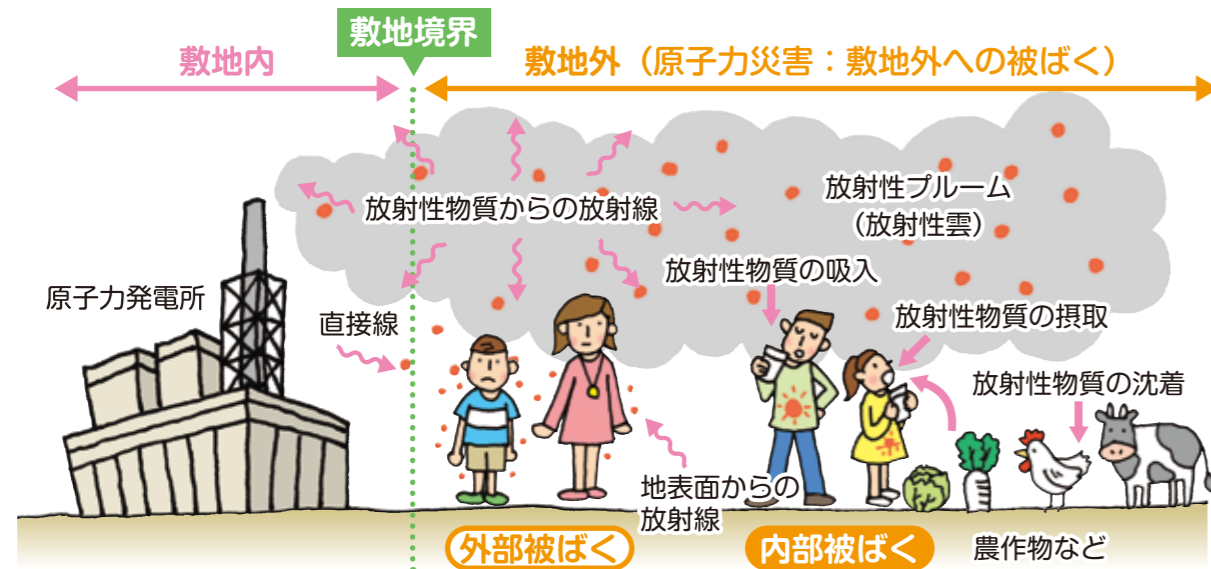


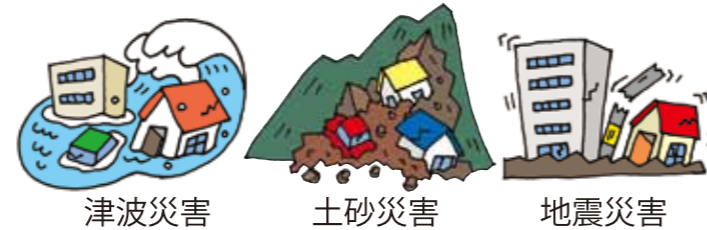
原子力災害とは？

原子力発電所における放射性物質又は放射線が異常な水準で事業所外へ放出されることによって生じる災害のことです。



原子力災害の特徴

●自然災害による被害は、目に見えます。



●放射線による被害は、目に見えません。



目に見えないため危険・安全の判断ができないので、モニタリングを実施し、放射線の測定をする必要があります。

詳しくはP14をご覧ください。

原子力災害が発生するとどうなるの？

原子力発電所で事故が起きると、放射性物質が周囲に放出される恐れがあります。放射性物質は、空気と混ざり雲のようなかたまり(放射性プルーム)となって移動します。

【災害発生時のイメージ図】



【被ばく】と【汚染】の違い

- 「被ばく」…放射線を受けることをいいます。
- 「汚染」…放射性物質が皮膚や衣類に付着した状態であり、洗ったり拭き取ったりして、放射性物質を落とす作業(除染)を行います。

【外部被ばく】と【内部被ばく】

※外部被ばくだけでなく、内部被ばくにも注意が必要です。

- 「外部被ばく」…体の外から放射線を受けることをいいます。
- 「内部被ばく」…呼吸や食べ物、傷口から体内に取り込んだ放射性物質により、体の内部から放射線を受けることをいいます。